

下関スタンダード



～授業を振り返る～

「学びが好きな子ども」の育成
「学びの街・下関」の実現



子供の实態
を踏まえた授業

知識及び技能の
習得

思考力・判断力・
表現力等の育成

これからの時代に
求められる

資質・能力

自己効力感

読 解 力

見通しと
振り返り(評価)
のある授業

かかわり
合いのある授業

学習に向かう力・
人間性の涵養



下関市教育委員会
2019年4月 改訂

子供の実態を踏まえた授業

授業づくりでまず大切なのは、子供たちの実態を把握し、その特性を踏まえた単元構成や授業の展開を考えることです。カリキュラム・マネジメントの3つの側面の中でも「子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づいたPDCAサイクルの確立」という視点から、教育課程に基づく教育活動の質の向上・学習の効果の最大化をめざしましょう。

児童生徒質問紙の結果を活用した「見えない学力」の分析

- < 学習意欲の観点から > (例)「(教科名)の勉強は好きですか」
の学習に前向きに取り組む積極性が見えます。
(例)「地域や社会で起っている問題や出来事に興味がありますか」
自分の学びを日常生活に生かす力が見えます。
- < 生活習慣の観点から > (例)「朝食を毎日食べていますか」「放課後に何をしてお過ごしことが多いですか」
生活リズムの改善・計画的に家庭学習に取り組む日常が見えます。
- < 学習習慣の観点から > (例)「家で学校の宿題をしていますか」
学力の定着や授業準備の意識が見えます。
(例)「学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか」
言葉に親しもうとする態度が見えます。

子供たちの生活の実態を把握

子供の実態を項目別に整理

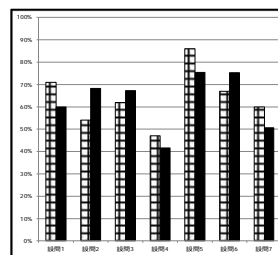
- ・よいところ ・集中できる場面 ・教科の力
- ・得意、不得意 ・友達関係 ・こだわり
- ・困っていること ・家庭環境 ・生育歴 など

一人ひとりや学級の実態を把握

子供たちの普段の表情や会話
「教育相談週間」の設定
「生活アンケート」やQ-U等の質問紙
児童生徒理解につながる教職員・保護者との定期的な情報交換
指導要録、家庭環境調査票、前担任からの申し送り、家庭訪問、個人懇談など

子供たちの学力の実態を把握

学力分析支援ツールの活用



設問別の正答率がグラフで示されます。
特に正答率の低かった問題については誤答分析を行い、どこでつまづいているのかを確認しましょう。

(その他の活用例)

- ・正答率の低い問題から校内研究主題と関連がある1題を選んで、教員全員で解いてみる。
- ・「なぜクロス集計で算数を得意と思う子が増えたのか」「なぜ問題後半の無答数が減ったのか」等の視点から成果分析をし、学校の共有財産とする。

児童の実態をもとに

教師が今できることを考える



単元全体を視野に入れた授業構成の工夫
1 単位時間の授業展開の改善



授業を振りカエル
CHECK!



授業づくり編

子供たちの生活や学力の実態を把握して授業に取り組んでいますか。
子供の反応や発言をイメージしながら、授業の流れを考えていますか。
1 単位時間だけでなく、単元全体を見据えた教材のとらえ方をしていますか。

かかわり合いのある授業

「支持的風土」 = 「失敗や間違いが気持ちよく受け入れられる環境」のこと

(1) 一番大切なのは、支持的風土を育むこと

ほめる : 「短く力強く！」...意図的・具体的にほめることで一定の方向性と評価規準を示しましょう。

しかる : 「短くしかってじっくり論ず！」...端的にしかることで子供のやる気を引き出しましょう。

認める : 「いてくれてありがとう！」の気持ちをもつ...子供のよさも欠点も、あるがままの姿を認めましょう。
結果だけでなく、やろうとした気持ち、努力し続けた気持ちも認めることが大切です。

(2) 「どのように学ぶか」 かかわり合いを生む発問を

・授業は「発問」が命です！「発問」が授業をつくります！「質問」と区別しましょう。

発問・・・考える機会を与えるもの。(例:「～なのはなぜですか？」等)

質問・・・知っているかどうかを問うもの。(例:「～を知っていますか？」等)

効果的な発問は...

端的でわかりやすい
計画的
興味・意欲を引き出す
子供の実態に合っている
タイミングがよい

子供が考える時間を十分に確保するように
(教師がしゃべり過ぎない！)
(例:教材提示後や発問後の「間」を大切に)

発問の目的は...

目的を明確に！

興味・関心を高めるため
(例:「この中で一番 なのはどれでしょう?」)
授業の目標や課題を意識させるため
(例:「これまでの学習と同じところはどこですか?」)
対立・葛藤を生み出すため
(例:「AとBのどちらに賛成ですか?」
「2つの考えを比べて、相違点は何ですか?」)
思考の過程を振り返るため
(例:「新しくわかったことは何ですか?」
「この考えや方法は他のどんな場合に使えるそうですか?」)



学習の基盤となる「聴く力」が、身に付いていることも大切

- ・話し手の立場に立って聴こうとする姿勢
- ・最後まで集中して聴こうとする姿勢
- ・自分の考えと比較しながら聴き、考えを深めたり広げたりする力 など

授業を振りカエル
CHECK!



導入・展開編

常に「支持的風土」を育む授業づくりを心がけていますか。
一問一答の質問に偏った授業ではなく、目的によって「発問」を使い分けていますか。
対話の場面が、課題解決につながっていますか。

見通しと振り返り（評価）のある授業

子供たちが学習の見通しをもち、その見通したイメージと比較して学びを振り返る（評価する）ことは、客観的に自己を見つめることや次の新しい学びへの意欲等、これからの時代に必要な資質・能力を育むことにつながります。

（１）「何を学ぶか」 めあてを明確に！

めあては、1単位時間や単元全体の中で子供たちがめざすゴールです。

めあての例

問いかけ型	「なぜ～だろうか（理由）」「どうすれば～できるだろうか（方法）」
身に付ける知識・技能型	「～について知ろう（知識）」「～できるようになろう（技能）」
思考・判断・表現型	「～についてまとめよう（集約）」「～を説明しよう（表現）」

（２）「何ができるようになるか」を意識した授業で 子供たちの変容（伸び）を見取る

子供に「何が身に付いたか」を評価で見取り、子供が学んだ事柄を実感できるような価値付けや、日常生活・他教科と結びつける工夫が大切です。



（３）子供自身が学びを振り返り、次の学びへ

「まとめ」と「振り返り」の違いを意識し「評価に対する評価」や「評価のための評価」にならないことが大切。

まとめ・・・本時の課題に対する答え・結論（学習内容を定着させるもの）

振り返り・・・学びの成果の実感・自己の変容（学習方法や学びのよさに気付かせるもの）

	方法・書かせ方・留意点 等
まとめ	必ず全員が共有する 「めあて」と「まとめ」は問いと答えの関係 主として「わかったこと（知識・理解）」・「できるようになったこと（技能）」
振り返り （評価）	個によって違う内容 単なる感想ではなく、本時の学びや次時での学びを書く 連続した学びとなるような書き方で（例：「昨日と違うところは～、同じところは～」） 主として「工夫したこと（能力）」・「努力したこと（意欲）」（例：「自分では気付かないことをグループで話し合うことで、発見することができた」「自分から進んで質問できた」）

振り返りを授業改善に！多様な方法で！

（例）子供たちの意見や疑問を次時の導入に取り入れる
記述だけでなく類似問題を解いてみる 等

授業を振り返りカエル

CHECK!



終末編

子供たちがめざすゴールが明確になるような工夫をしていますか。

自己の学習を振り返らせ、次の新しい学びにつながるよう工夫していますか。